

○ 第2学年 全体の傾向と経年変化および達成率

		国語	社会	数学	理科	英語
H30 (1年次)	目標値	63.1	60.0	65.1	60.0	
	校内平均正答率	68.9	59.3	72.1	58.3	
	市平均正答率	66.1	59.7	72.8	60.5	
	校内平均正答率と市平均正答率の差	2.8	△ 0.4	△ 0.7	△ 2.2	
	校内平均正答率と目標値の差	5.8	△ 0.7	7.0	△ 1.7	
	達成率(宮城野中)	74.4	61.3	72.9	57.3	
	達成率(仙台市)	66.9	61.5	74.5	63.3	
R1 (2年次)	目標値	62.3	62.9	58.1	58.8	60.3
	校内平均正答率	70.6	65.7	59.3	58.2	60.4
	市平均正答率	70.6	69.3	58.5	62.3	61.8
	校内平均正答率と市平均正答率の差	-	△ 3.6	0.8	△ 4.1	△ 1.4
	校内平均正答率と目標値の差	8.3	2.8	1.2	△ 0.6	0.1
	達成率(宮城野中)	79.8	62.8	60.4	57.4	62.2
	達成率(仙台市)	77.9	70.3	59.5	66.3	61.2

△はマイナスを表します。

○ 第2学年 5教科の結果と今後の取組

分類	区分	国語		
		目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	62.3	70.6	70.6
	基礎	65.5	72.7	72.8
	応用	54.4	65.3	65.1
領域	話すこと・聞くこと	60.0	72.3	72.6
	書くこと	63.6	74.8	75.1
	読むこと	47.1	55.2	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	76.4	76.3
観点	国語への関心・意欲・態度	63.9	75.3	76.0
	話す・聞く能力	60.0	72.5	73.0
	書く能力	62.5	73.7	73.9
	読む能力	48.5	57.1	57.1
問題の内容	言語についての知識・理解・技能	70.8	76.4	76.1
	話し合いの内容を聞き取る	63.8	77.3	78.1
	漢字を読む	82.5	90.6	90.8
	漢字を書く	62.5	59.6	58.6
	文法・語句に関する知識	68.8	79.0	79.4
	説明文の内容を読み取る	53.3	58.7	58.3
	文学作品の内容を読み取る	42.5	52.6	52.5
資料を作成して発表する	55.0	66.2	66.8	
作文	65.0	75.4	75.1	

成果と課題および今後の取組

教科全体の校内平均正答率は目標値を8.3ポイント上回り、市平均正答率と同様の結果となった。その他の項目でも目標値との比較では、概ね良好な結果であった。

領域別に見ると「話すこと・聞くこと」「書くこと」が市平均正答率を下回っている。自分で調べたことや考えを書いてまとめる学習、正確に聞き取る学習の強化が必要であると言える。今後の取組としては、授業で考えたことをノートに書く活動をじっくりと行いたい。また、学習形態を工夫して伝え合う活動を行い、自分の考えを的確に表現すること、相手の話を正確に聞き取ることを意識させたい。

校内平均正答率と市平均正答率が目標値を下回ったのは、問題の内容別での「漢字を書く」である。定期的に小テストを繰り返すと共に、辞書等を活用しながら読解力を高めさせたい。

社 会

分類	区分	社会		
		目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	62.9	65.7	69.3
	基礎	67.5	69.6	73.4
	応用	51.3	55.9	58.9
領域	世界の地域構成	56.7	58.5	57.4
	世界各地の人々の生活と環境	65.0	71.5	75.0
	世界の諸地域	64.3	65.5	69.4
	古代までの日本	66.1	71.6	76.4
	中世の日本	57.0	55.1	58.8
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	59.1	62.8	65.7
	社会的な思考・判断・表現	56.1	61.0	63.8
	資料活用技能	63.5	65.3	68.7
	社会的事象についての知識・理解	65.8	69.1	72.6
問題の内容	地球の姿をとらえる	56.7	58.5	57.4
	世界各地の人々の生活と環境	65.0	71.5	75.0
	世界の諸地域	64.3	65.5	69.4
	古墳時代まで	71.0	77.7	83.5
	飛鳥時代～平安時代	60.0	64.0	67.4
中世の日本	57.0	55.1	58.8	

成果と課題および今後の取組

基礎・応用とも目標値は上回っているが、市平均を下回る結果となった。

観点別に見ると、資料活用技能及び社会的事象についての知識・理解が3ポイント以上市平均よりも下回っている。

授業で扱う資料の精選と読み取り方の指導、基礎・基本の定着のための小テストやプリント学習等を継続して行っていく。

数 学

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	58.1	59.3	58.5
	基礎	63.6	67.5	66.5
	応用	44.5	38.7	38.3
領域	数と式	70.0	71.7	69.6
	図形	54.3	62.7	60.2
	関数	48.1	42.5	43.6
	資料の活用	48.3	48.7	50.2
観点	数学への関心・意欲・態度	44.5	38.7	38.3
	数学的な見方や考え方	48.7	45.5	45.1
	数学的な技能	61.1	62.4	61.3
	数量や図形などについての知識・理解	55.3	59.4	59.4
問題の内容	計算の復習	77.5	79.7	73.9
	正の数・負の数	83.3	88.6	87.7
	文字式	68.8	75.4	71.4
	1次方程式	60.0	55.3	55.7
	比例・反比例	48.1	42.5	43.6
	平面図形	50.0	48.5	44.9
	空間図形	57.5	73.4	71.7
	資料の散らばりと代表値	48.3	48.7	50.2

成果と課題および今後の取組

教科全体の校内平均正答率が目標値、市平均正答率に比べ、それぞれ1.2ポイント、0.8ポイント上回った。また、達成率においても0.9ポイント上回っており、昨年度は1.6ポイント下回っていたことを考えると、全体的には力を付けてきているといえる。

観点では知識・理解が市平均正答率と同じ値であるが、目標値を下回っているものはない。

領域では「数と式」「図形」において市平均正答率を2ポイント程度上回っているが、「関数」「資料の活用」では1ポイント程度下回っている。

このことを踏まえ、特に関数分野を中心にお互いに説明し合うことで理解を深める「学び合い」の場を効果的に設定し、知識・理解の定着を図りたい。

理 科

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	58.8	58.2	62.3
	基礎	60.4	57.3	61.8
	応用	54.4	60.6	63.7
領域	エネルギー	56.0	56.0	58.2
	粒子	64.0	66.0	71.9
	生命	60.0	59.8	61.9
	地球	53.3	47.1	53.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度	60.6	61.0	66.4
	科学的な思考・表現	50.6	52.4	55.3
	観察・実験の技能	68.5	65.1	72.5
	自然現象についての知識・理解	63.1	61.0	64.8
問題の内容	植物のからだのつくりとはたらき	57.5	55.5	60.6
	植物の種類	63.3	65.6	63.6
	身のまわりの物質とその性質	60.0	70.5	77.8
	気体の性質	66.7	56.4	68.0
	水溶液の性質	63.3	72.7	75.3
	物質の状態変化	65.0	65.7	66.6
	光の性質	60.0	63.6	64.0
	音の性質	56.7	58.9	63.9
	力と圧力	54.0	51.3	52.5
	火山	53.3	52.5	57.5
地層	53.3	41.7	50.1	

成果と課題および今後の取組

教科全体の校内平均正答率が目標値、市平均正答率のどちらも下回った。特に基礎が目標値を大きく下回っているため、復習をする習慣を付けさせ、基礎の定着を図りたい。

観点別に見ると、観察・実験の技能が3.4ポイントと目標値を最も下回っている。普段の授業において、実験に意欲的に取り組む姿が見られるが、実験器具を正しく扱えていない印象を受ける。実験中に机間巡視をし、演示・指導することで、正しい扱い方を定着させたい。また、実験の目的を明確にし、各操作を行う理由をしっかりと理解させることで、「ただやっている実験」ではなく「学びを深める実験」を目指したい。

英 語

分類	区分	目標値	校内平均正答率	市平均正答率
基礎・応用	教科全体	60.3	60.4	61.8
	基礎	65.4	65.9	67.1
	応用	47.5	46.7	48.5
領域	聞くこと	70.0	73.4	73.7
	読むこと	61.3	61.7	63.2
	書くこと	51.9	49.2	51.2
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	62.0	62.8	64.2
	外国語表現の能力	46.9	42.5	45.8
	外国語理解の能力	64.2	67.6	68.5
	言語や文化についての知識・理解	60.4	57.5	58.6
問題の内容	リスニング(内容理解)	75.8	86.5	85.7
	リスニング(対話文の応答)	61.3	53.8	55.7
	語形・語法の知識・理解	70.0	64.4	65.8
	語彙の知識・理解	58.8	57.1	56.1
	さまざまな英文の読み取り	55.0	63.4	63.1
	長文の読み取り	58.8	57.3	60.8
	単語の並べかえによる英作文	52.5	50.9	53.8
	場面に応じて書く英作文	40.0	24.5	27.6
3文以上の英作文	50.0	52.9	57.0	

成果と課題および今後の取組

教科全体の校内平均正答率は目標値を上回っているが、市平均より1.4ポイント下回る結果となった。

分類別に見ると、平均して1~2ポイント程度の差が見られる。特に「長文の読み取り」については3.5ポイント、「3文以上の英作文」は4.1ポイント下回った。このことから、既習の語句や文法をしっかりと理解し、適切に読み取ること、用いることができる力の育成が課題と言える。

普段の授業では、語句や文法といった基礎・基本の定着を目指しているが、それに加え、今後は覚えたことを適切に用いることができる力を身に付けさせたい。今回の結果を踏まえて、説明文や会話文、物語文など、様々なジャンルの英文を読む機会を増やし、読み取った内容について、英語で感想を述べるなど、より発展的な活動を取り入れていきたい。

## ○ 第2学年 生活・学習状況調査の分析と今後の取組

### ①全体の傾向

#### 基本的な生活習慣について

- (1) 友達に会えるから、毎日学校に行きたくなくなるという生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の割合が全体の91.5%を占めており、学校生活が楽しいと感じている良い傾向にある。
- (2) 学校のきまりを守っているという生徒は、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の割合が全体の98.9%を占めており、仙台市平均を上回っている。また、昨年度データと比較しても、上回っており、規範意識が高いことがうかがえる。
- (3) 「学級には信頼できる友達がいる」生徒は、94.2%、「学級では、自分のよいところを認めてもらっている」生徒が88.9%おり、昨年度同様に良好な人間関係を築き安心して学校生活を送っている。
- (4) 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答している生徒は88.9パーセントである。
- (5) 「地域の中で、知っている人に会ったときはあいさつをしている」生徒は、「している」「どちらかといえばしている」と合わせて83.6%であり、仙台市の平均より低い傾向にある。
- (6) 「地域の行事に参加している」生徒は37.0%で、仙台市平均を大きく下回っている。

#### 学習面について

- (1) 「将来の夢や目標を持っている」生徒は、「持っている」「どちらかといえば持っている」合わせて68.8%であり、仙台市平均を3.8%下回ったが、「自分には可能性があると思う」生徒は75.7%と仙台市平均を上回った。
- (2) 「自分の夢をかなえるためにたくさん勉強する」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は69.8%であり、仙台市の平均をやや下回っている。
- (3) 「ふだん(月曜から金曜)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」という質問に対しては「1時間以上」である生徒が35.4%であり、仙台市平均を10%以上下回った。
- (4) 「学校の授業の復習をしている」生徒は、仙台市の平均より10%以上下回っている。
- (5) 「家庭学習では、何度も繰り返して問題を解く学習をしている」生徒は、54.5%であり、仙台市平均を大きく下回っている。

### ②課題および今後の取組

#### 【課題】

- (1) 基本的な生活習慣について
  - 「携帯電話・スマホの使い方について」家族と約束したり、話し合ったりしている生徒は、54.5パーセントと少ない。
- (2) 学習面について
  - 「夢や目標を持っている」生徒や「その夢をかなえるためにたくさん勉強する」という生徒の割合は、仙台市の平均を下回っている。
  - 本校の協働型学校評価重点目標「休日もふくめ毎日1時間は家庭学習に取り組む生徒の割合を80パーセント以上にする。」を下回っている。
  - 「授業中、先生の説明や友達の発表に疑問を持った時、進んで質問することができる」生徒は、「できる」「どちらかといえば、できる」を合わせて、53.6パーセントである。
  - 勉強を通して、新しいことが分かることを楽しいと感じている生徒が、仙台市の平均を下回っている。

#### 【今後の取組】

- (1) 基本的な生活習慣について
  - 学活や学年集会などを通して、正しい「携帯」や「スマートフォン」の使い方を指導する。
- (2) 学習面について
  - 進路学習を通して、将来を見通した進路指導や、夢の実現のためにどのように学習をしたら良いのかについて、考させる。
  - 学習計画表を利用して、計画的に家庭学習を進めることができるように指導する。
  - 各教科や学級活動、総合的な学習の時間などにおいて、「話し合い活動」や「学び合い活動」を取り入れ、自分の考えを伝えたり、分からないことを質問したりできる場の設定をしていく。
  - 「学ぶ喜び」を感じることができる。教材研究や指導方法の工夫を各教科で行う。